

SCIX Report

2013 年冬

9月からはじまったトップリーグもブライマックスを迎えています。

寒さを吹き飛ばすような熱いゲームを期待したいですね。

さて SCIX ラグビークラブも、男女問わず、新年早々から熱気あふれる練習を繰り返しています。

そんな SCIX ラグビークラブを今年も何とぞよろしくお願ひ申し上げます！

レーオフに突入し、ラグビー界はク

*****Sports Community & Intelligence Complex*****

【SCIX スポーツ・インテリジェンス講座】

■第2回「根拠のない自信を育てよう」

講師：大畑大介氏

日時：2012年5月26日(土)

場所：神戸国際会館セミナーハウス



2回目となる SCIX スポーツ・インテリジェンス講座は、講師にラグビー元日本代表の大畑大介氏を招き、開催しました。大畑氏は、2011年3月に現役を退いて、現在は神戸製鋼コベルコス

ティールーズのアンバサダーとして「神戸のラグビー」を広く伝える役割を担いながら、ラグビー中継の解説者などメディアへの露出を通してラグビーファンの拡大や 2019 年ワールドカップ日本大会の成功を目指しています。講座では、大畑氏がラグビーをはじめたきっかけから始まり引退するまでの間の、成長期独特のくるぶしや膝の痛みで苦しんだことや高校時代、上履きの右足に「全国制覇」、左足に「高校日本代表」という目標を記入し密かに自主練習を続けた話、京都産業大学進学への動機、そして2度にわたるアキレス腱断裂からの復活のエピソード、開幕前の異例の引退発表にあったファンへの感謝の思いなどを話されました。講演の最後には「根拠のない自信でもいいから目標を明確にし、それに向かって努力しよう」と自らのラグビー人生を振り返りながら、80名を超す参加者に熱いメッセージを送りました。



■ 第3回『失敗して学ぶ 成功して学ぶ～可能性の引き出し方』

講師：工藤公康氏

日時：2012年6月23日(土)

場所：神戸国際会館セミナーハウス

西武ライオンズ、ダイエーホークスなどで投手として30年間活躍した野球解説者、工藤公康氏をお招きし、第3回 SCIX スポーツ・インテリジェンス講座を行いました。工藤氏は、実働29年、浪人1年間の現役生活を振り返り、なぜここまで続けることができたのかを講演しました。長きに渡るプロ野球生活の中で大きな転機になったのは、3年目のオフシーズンのアメリカでの武者修行。留学したのは、メジャーリーグの傘下であるマイナーリーグの1Aです。練習環境、生活環境など全てが整った日本でプレーしていた工藤氏にとって、1Aでの生活は「過酷」のひと言だったそうです。日米の差を目の当たりにし、工藤氏は、上に這い上がるためには、人から与えられてやらされるのではなく、自分から何をしなければいけないかを考え、チャンスを掴まないといけないということを学んだそうです。この他にも日本一に4度輝いたことがある名監督・広岡達朗氏のエピソードや28歳で肝臓疾患を患い選手生命の危機に陥った時に奥様と二人三脚で再起をかけて奮闘したことなどを話されました。現役引退後は、野球解説者、野球評論家として活動する傍ら、野球教室なども数多く開催する工藤氏は、子どもにスポーツをさせる上で大人が注意すべき点なども熱く語っていただきました。現役時代の話から子どもの指導まで、多岐にわたる内容の講演となり、聴講者の皆様方も大変満足された様子でした。



■ 第4回『市民スポーツ発 アスリートの育て方～地域とマスコミの役割』

講師：玉木正之氏

日時：2012年8月4日(土)19:00～20:30

会場：神戸国際会館セミナーハウス

今年度最後となる SCIX スポーツ・インテリジェンス講座の講師は、テレビ、ラジオ等で活躍中のスポーツライター・玉木正之氏。ロンドンオリンピック開催期間中ということもあり、話題はオリンピックに。玉木氏は、今回のロンドンオリンピックは、「ボーダーレス五輪」だと明言されました。まず一つ目は、国境の壁がなくなったということ。そして二つ目は、男女の壁がなくなったと言及。三つ目は、健常者と身体障害者の壁です。そして四つ目は、メディアです。オリンピックといえば、テレビが主流でしたが、今回のオリンピックでは、ツイッター、フェイスブックをはじめ、ソーシャルメディアが大きな役割を果たしました。ロンドンオリンピックを「ボーダーレス五輪」という視点で話され、これまでと変わった点を上げられた玉木氏ですが、最後に今後スポーツが発展していく中で、たったひとつ変わらないものがあると明言されました。それは、地域密着。地域密着のスポーツはなくなることはないときっぱりと断言。しかし日本では、新聞社などのマスメディアが、スポーツチームを持っていることなどから、地域密着のスポーツが少なく、これは日本のスポーツ界にとっても不幸だと発言されました。その後、質疑応答が行われ、90分間の講座は終了しました。



【第2期 『SCIX 近畿セブンズブロックアカデミー』】

■ 第3回女子セブンズ練習会／第8回北区ラグビーフェスティバル

日時：2012年7月22日（日）

場所：神戸市立森林植物園



兵庫県内の、幼稚園、小学生、中学生、高校生、そして女子チームが集結し、それぞれのカテゴリーで熱戦を展開する「北区ラグビーフェスティバル」。今年で8回目を迎える同フェスティバルに、第2期「SCIX 近畿セブンズブロックアカデミー」が、昨年に引き続き出場しました。参加したメンバーは、中学生14名、高校生10名の計24名です。中学生チームは、タッチフットボールから急遽タグラグビーへと変更され、タグラグビーに慣れない選手たちはとまどいを隠せませんでした。徐々に反応が良くなっていました。しかし序盤の失点が響き、敗戦。2戦目は7人制のゲームを行い、経験者が初心者をひっぱり、ナイストライが連続して生まれました。高校生チームの1試合目は、2010年7月に発足した石見智翠館高校女子ラグビー部と対戦。序盤は、固さが見られ、相手にトライを立て続けに奪われますが、次第に動きが良くなるとオフロードでボールをつないで反撃のトライを奪います。結局、この試合は敗れましたが、選手たちの表情から、手応えを感じた様子が見受けられました。2試合目は、神戸甲北高校女子ラグビー部との一戦です。開始直後からボールを継続し、相手陣内でプレーしますが、ミスからボールを奪われ、先制のトライを献上。しかしその後は落ち着いた試合運びを見せ、3トライを奪って、逆転勝利しました。課題も出ましたが、彼女たちにとって、大きな経験を積んだ大会となり、ひと回り成長したように感じられました。

■ 第4回女子セブンズ練習会

日時：2012年8月26日（日）

場所：灘浜グラウンド



普段は15時からスタートする女子セブンズ練習会ですが、残暑が厳しい時期ということもあり、第4回目は午前9時から練習を開始となりました。午前中とはいえ、30度を超す猛暑の中でしたが、島根県の石見智翠館高校女子ラグビー部も加わったAチーム22名、Bチーム13名の計35名の選手たちは、月に一度の練習を楽しみにしていた様子で、暑さをものともせず、元気いっぱい。武藤規夫コーチ、今村順一コーチと8月から新しくSCIXラグビークラブコーチに就任した神戸製鋼コベルコスティーラーズOBの大石嶺氏の指導のもと、Aチーム、Bチームに分かれて、それぞれハードな練習を行いました。この日の練習後、課題としてあげられたのが、パスの精度。今村コーチから「パスは基本ですし、パスの練習をしっかりと、次の練習会では、レベルアップした姿を見せて欲しい」と檄が飛ばされました。

■ 第5回女子セブンズ練習会

日時：2012年9月9日(日)

場所：灘浜グラウンド

まだまだ残暑が厳しい中で開催された練習会には、和歌山県立田辺高校女子ラグビー部3名と、前回に引き続き島根県の石見智翠館高校女子ラグビー部8名が加わり、Aチーム25名、Bチーム16名の計41名が参加しました。Aチームは、今村順一コーチと大石嶺コーチが、Bチームは神戸甲北高校女子ラグビー部監督の財田幸治先生が指導。Aチームはアタック練習



やアタック&ディフェンスなど、Bチームはセブンズのエッセンスを取り入れながら、パス練習、コンタクト練習、アタック&ディフェンスなど基本練習を行いました。その後、Aチームは7人制、Bチームはタッチフットの試合を行い、最後にシャトルランを実施。練習後、今村コーチは前回同様に課題としてパスの精度をあげていました。また財田先生からはフィットネスの重要性が話され、選手たちは皆、真剣な面持ちで耳を傾けていました。そして最後に SCIX 美齊津二郎理事より「アジア・パシフィック女子セブンズで、女子7人制日本代表は準優勝しました。第2回練習会で指導していただいた浅見ヘッドコーチは、フィジカルの強いカザフスタンとオーストラリアに勝ちたいと言われていましたが、今大会の予選でその両チームと対戦し、日本代表は勝利を収めました。最後、オーストラリアと再び決勝戦で対戦し、敗れてしまい、準優勝となった訳ですが、日本代表が目指すラグビーが世界でも通用することを証明してくれました。先輩たちと同じように、自分もできると強い気持ちを持って、これからもチャレンジしていきましょう！」という熱いエールがあり、第5回練習会は終了しました。

■ 第6回女子セブンズ練習会

日時：2012年9月23日(日)

場所：灘浜グラウンド

Aチーム22名、Bチーム12名の計34名が参加。全員そろってウォーミングアップをした後、100mダッシュを10本走る、フィットネストレーニングを実施しました。序盤は余裕の表情だったアカデミー生ですが、徐々に脱落者が。それでもなんとか互いに声をかけ、励まし合いながら、足の故障を持つ数名を除き、全員が完走しました。その後、Aチームは、今村順一コーチと大石嶺コーチ、B



チームは神戸甲北高校・財田幸治先生と姫路北高等学校・宇都宮靖人先生の指導のもと、練習が行われました。Aチームはグリットを使ったパス練習の後、SOからアタックラインを敷いてのアタック練習、ブレイクダウンから2次攻撃につなぐ練習、トライを獲るまでのアタック練習、コンタクト練習、アタック&ディフェンスを行いました。Bチームはパス練習、コンタクト練習、アタック&ディフェンスを実施。コンタクト練習では、財田先生の熱い指導の声が飛んでいました。そして隣のグラウンドで行われている神戸製鋼コベルコスティーラーズの練習試合を時間があるものは見学をして、第6回練習会は終了しました。

■ 第7回女子セブンス練習会

日時：2012年10月8日(日)

場所：灘浜グラウンド

澄み切った秋晴れ空の下、『SCIX 近畿セブンスブロックアカデミー』の第7回女子セブンス練習会を開催しました。灘浜グラウンドにはAチーム21名、Bチーム6名の計27名が集合。どの選手もやる気に満ちあふれた表情で練習に臨みました。この日は、まず腹筋、腕立て伏せ、1km走の測定を実施。腹筋、腕立て伏せは、30秒間に30回以上が目標、1km走は3分台を目標にそれぞれ行いました。腕力が弱い女子にとって、腕立て伏せは、なかなか難しいよう

で、皆、大苦戦。目標回数に到達しない選手が大半を占めました。また1km走も3分台に到達した選手は1人だけと、フィジカルの強化という課題が出ました。リアクションドリルの後、A、Bチームに分かれて練習を開始。Aチームは今村順一コーチと武藤規夫コーチが、Bチームは神戸甲北高校の財田幸治先生と姫路北高等学校の宇都宮靖人先生が指導を行いました。それぞれラグビーの練習をしっかり行った後、最後は全員で、腹筋、腕立て伏せを30秒間×5本実施。今村コーチは「ラグビーはコンタクトを避けることができないスポーツです。今日の練習でやった腹筋や腕立て伏せなどは、特別な器具がなくても、自宅のできる運動です。ラグビーができる身体づくりを普段から心がけましょう」とアドバイスを送りました。



■ 名古屋遠征「SCIX 近畿セブンスブロックアカデミー vs 名古屋レディース Jr.」

日時：2012年10月13日(土)

場所：愛知・名古屋市瑞穂公園ラグビー場

愛知・名古屋市瑞穂公園ラグビー場でジャパンラグビートップリーグ第6節トヨタ自動車ヴェルブリッツvsサントリーサンゴリアス戦が開催され、女性が入場無料となる「ラガールデー」が行われました。この一環として、試合後に、SCIX 近畿セブンスブロックアカデミーvs 名古屋レディース Jr.の女子7人制ラグビーの対戦(7分×3本)が行われました。7月22日に行われた第8回北区ラグビーフェスティバル以来の実戦ということもあり、選手たちは若干緊張した面持ちで会場入り。しかも相手は、女子ラグビー界を牽引するトップチ



ームです。SCIX 近畿セブンスブロックアカデミーは、まず接点の攻防でプレッシャーをかけ、相手の球出しを遅くさせようとする作戦で試合に入りましたが、中盤に相手のタックルからターンオーバーされ、先制のトライを奪われると、試合の流れは相手ペースに。結局、2本とも敗戦を喫してしまいました。3本目は、相手チームから何名か入っていただき SCIX 近畿セブンスブロックアカデミーの紅白戦を実施。練習では身につけることができないゲーム感覚を養いました。今回の試合では、練習の成果を発揮することができず、悔しい結果に終わりましたが、これを真摯に受け止め、今以上に練習に励んでもらいたいと思います。なお招待試合にあたり万全の態勢をとっていただいた愛知県ラグビーフットボール協会に、心より御礼申し上げます。

■ 第8回女子セブンズ練習会

日時：2012年10月28日(日)

場所：灘浜グラウンド

この日は朝から土砂降りの雨でしたが、アカデミー生の日頃の行いの良さのお陰か、どんどん天気は回復し、練習開始時には太陽が顔を出していました。最初に、腹筋、立ち幅飛び、10m 走、懸垂の測定を実施。前回の腕立て伏せと同様に腕力を要する懸垂は、どの選手も悪戦苦闘。1回もできない選手が続出という残念な結果に終わりました。また立ち幅飛びは、2mを目指して測定し、こちらはクリアした選手も多く、まず



まずの結果。その後、A、B チームに分かれて、ラグビーの練習へ。A チームは今村順一コーチが、B チームは神戸甲北高校の財田幸治先生が指導しました。A チームは1対1の練習からスタート。その後、約10m四方のグリットを作って、2対1、さらにスペースを広げて4対2を実施。そして最後にセブンズの試合を行い、練習は終了。試合の後、今村コーチは選手を集めて、パスの精度やサポートプレーなど、今日出た課題を上げました。B チームは、タックル練習から。タックルされてからのボールのリリースの仕方やタックル後の立ち上がりなどをポイントに指導が行われました。その後、横15m×縦20m程のグリットを使ってアタック&ディフェンスを実施。さらに横30m×縦50mにまでスペースを広げて練習を行った後、フルコートでアタック&ディフェンスを行いました。練習後、全選手を集めて財田選手は「アカデミーの練習会は月に2回しかありませんので、それを補うためにも学校や私生活での自主練習が不可欠です。思うだけでなく、行動に移して、個人でもしっかり練習に取り組んでください」と話すと、今村コーチも「毎回の練習や試合で、できたこと、できなかったことをしっかり理解し、できなかったことに対しては、どうしたらできるようになるのかを考えて、できるようになるまで取り組んで欲しい。うまくなりたいたいという向上心を持って、個人でも練習して欲しいと思います」と自主練習の必要性を説きました。

■ 第9回女子セブンズ練習会

日時：2012年11月18日(日)

場所：灘浜グラウンド

アップとして、5分間走、リアクションドリルを行った後、1000m測定を実施。皆、全力で走り切りましたが、前回の測定時より良い数字を出した選手は少なく残念な結果に。その後、



A、B チーム合同でボールを使った練習へと入りました。A チームは今村順一コーチが、B チームは、大石嶺コーチが指導を行い、練習後、今村コーチが「練習でできていることがタッチフットや試合になるとできない。それを出せるようにならないといつまでたっても向上しません。パスしたらサポートすることなどの基本をもっと意識してできるようにしましょう」と総括すると、大石コーチは「1つ1つのプレーを意識してやりましょう。少ない練習の時間を有効に使えるように意識を高めて取り組もう」と話がありました。また武藤則夫コーチからも「試合のための練習を意識するようにしていきましょう」とアドバイスが送られました。

【SCIX ラグビークラブ女子の部】

■第2回兵庫県高等学校女子セブンズマッチ 兵庫県選抜 vs 神戸甲北高校

日時：2012年11月23日(金・祝)

場所：神戸総合運動公園ユニバー記念競技場

全国高等学校ラグビーフットボール大会兵庫県大会決勝の前に、兵庫県高等学校女子セブンズマッチが行われ、兵庫県選抜としてSCIXラグビークラブ女子の部のメンバーが出場しました。

兵庫県選抜の対戦相手は、SCIX近畿セブンズブロックアカデミーにも参加している神戸甲北高校女子ラグビー部です。今年で2回目の開催ということで、試合前に神戸甲北高校の財田幸治先生は全選手を集めて「この1年間やってきたことを全て出して、観客に成長した姿を見せよう！」と鼓舞しました。1時間しっかりアップした後、兵庫県選抜のメンバーをまとめる牧野円選手は「高校3年にと



って、今日は最後の試合。今日は絶対に勝とう！」と声をかけ、いざ、試合へ。7分ハーフで行われた試合は、立ち上がりから兵庫県選抜にミスが多く出て、なかなか敵陣に入ることができません。2分、5分とトライを奪われ、追いかける展開になりました。リードを最大17点差に広げられる場面もありましたが、兵庫県選抜もビッグゲインを見せるなど、奮闘し、後半6分には約80m独走トライをマーク。最終結果5-17でノーサイドを迎えました。試合後、兵庫県選抜、神戸甲北高校女子ラグビー部の選手を集め、財田先生は「昨年よりスピード感もあり、スキルも上達しているところを見せることができた一戦だったと思います。観客からも非常に感銘を受けたという声が聞かれました！」と総括。昨年に続き兵庫県選抜は神戸甲北高校に敗れましたが、どの選手も力を出し切った様子で、晴れ晴れとした笑顔を見せていました。



【スポーツフェスタ in 七ヶ浜】

日時：2012年10月8日（月・祝）

場所：宮城県七ヶ浜町

日本アスリート会議では、「ウォームアップ・ジャパン・プロジェクト」と銘打ち、全国のアスリートたちと手を携え、困難に向かおうとしている日本人たちの心と身体をウォームアップするための活動を、様々な形をとりながら展開しています。その活動の一環として、体育の日に、宮城県七ヶ浜町で「スポーツフェスタ in 七ヶ浜」が行われ、SCIX ラグビークラブから元木由記雄コーチ、大石嶺コーチ、平尾剛コーチ、高倉和起コーチらが指導者として参加。「アスリートとボール



で遊ぼう」というサッカー、ラグビー、ハンドボールの3種目のトップコーチ・アスリートによるクリニックには、地元の少年団や一般参加で集まった約160名の子供たちが集まりました。ラグビーでは、子供たちに、独特のコンタクトプレーとパスプレーを体験してもらいました。指導をして元木コーチは「子供にとって元気があることはとても大事だと思う。今日は実際に子供たちとふれあって、みんな元気でなによりだった。子供たちにはスポーツを通じていろいろなことを学んでいってとにかく元気にやってほしいと思う。そうすることで東北も元気になっていくと思う」と感想を述べていました。

【第7回 SCIX・レフリーアカデミー講習会】

日時：2012年10月14日（日）

場所：芦屋中央公園グラウンド

SCIX レフリーアカデミーの講義が行われ、四辻順一朗レフリー（B級）が、関西学生ラグビークラブ選手権予選リーグの近畿大ドルフィンズ vs 立命館大バーバリアンズ戦、藤井正興レフリー（C級）がD.R.H & T vs 京都産業大ラビッツ戦の笛を吹きました。現在のアカデミー生の更なるレフリング向上に期待したいと思います。



【フットボール・コーチングセミナー19】

日時：2012年10月28日（日）

場所：ホームズスタジアム神戸

この日は荒天のため、グラウンドの状態を考慮し、参加予定のお子さんたちの安全を最優先とした結果、第一部の「3種フットボールクリニック」は中止となり、第二部の「スポーツフォーラム」のみの開催となりました。今回の「スポーツフォーラム」は「感覚としてもった経験値をどのようにうまくコーチングできるか？」というテーマを中心に進行。出演者は、ヴィッセル神戸U-18アカデミーコーチ／チーフスカウト・菊池彰人氏、神戸製鋼コベルコスティーラーズGM兼総監督・平尾誠二氏、関西学院大学アメリカンフットボール部監督・鳥内秀晃氏です。司会はSCIX美齊津二郎理事が務めました。まず美齊津氏が「SCIXラグビークラブでの練習時の元木コーチのコーチングを見た際、そのコーチングは豊富な経験からきた言葉、言葉を選ぶ能力があるからこそできたものと考えました。一般のコーチはトップコーチのような指導ができるか？そのためにはどうすればよいか？」と質問を投げかけました。平尾氏は、「暗黙知は、言葉にするのは難しい。それをどのように伝えるのか。今、スティーラーズではフリースピーを練習に導入しているのだが、選手間で上手い、下手がある。下手な選手は上手い選手のやり方を見たり、聞いたりしている。暗黙知を伝えるには、客観的に観る能力や言葉の強弱の使い方が必要である」と述べました。さらに美齊津氏が「子供達に最短のメッセージで指導するにあたり心がけていることは何か？」と問うと、菊池氏は「トッププレイヤーを目標にあげ、映像（視覚）でそのプレイヤーの動きを見させ、その動きと子供たちのどこが違うかを考えさせている」と回答。また鳥内氏は「理解できる選手とそうでない選手がいる。相手の理解度を把握することが大切」と話されました。ほかにもコーチングに際して結果や時間に制限ある中で指導者の忍耐力の必要性や決めつけの指導よりも選択肢を多くもたせ客観的な視野をもたせる指導法が重要であるなど、分かりやすく解説され、聴講に来ていた参加者たちは興味深い内容に真剣にメモを走らせていました。その後、質疑応答が行われ、最後にゲストである富士通株式会社ユビキタスBGユビキタスビジネス戦略室・内島誠氏によるスポーツ・センシングのプレゼンテーションを実施。約1時間半にわたる会は、盛況のうちに終了しました。



【入会案内（ご参考）】

（会員・会費について）

会員種別		入会金	年会費
正会員	個人会員	－	5,000 円
	団体会員	1 口 100,000 円（何口でも可）	100,000 円
サポーター	個人会員	－	2,000 円
	団体会員	1 口 50,000 円（何口でも可）	50,000 円

（お問い合わせ）

SCIX事務局 〒651-8585
神戸市中央区脇浜町2-10-26
t e l : 078 (261) 4046
e-mail : office@scix.org

SCIXは、みなさまのボランタリーな支援によって支えられています。

【発行人】SCIX事務局 今村 順一／大石嶺

【編集】山本 暁子

【発行元】SCIX事務局

〒651-8585

神戸市中央区脇浜町2-10-26

t e l : 078 (261) 4046

e-mail : office@scix.org